

臨床仏教師養成課程案内

臨床仏教師とは、現代社会の苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する仏教者のことです。花園大学国際禅学研究所及び(一社)アジア南太平洋友好協会では、このたび臨床仏教師養成関西第3期プログラムを開講いたします。本公開講座終了後、さらに専門的に臨床仏教について学ぶ意欲のある方々には、ワークショップや臨床実習(OJT)を受けていただき、審査を経た上で(公財)全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所より臨床仏教師の資格が認定されます。

知る、学ぶ 座学 (約15時間)

臨床仏教公開講座において、以下の条件を満たせば座学課程の修了となります。修了者のうち希望者は、ワークショップ課程に進んでいただくことができます。

- 全10回の講座のうち、8回以上の出席
- 全講座終了後にレポートの提出

理解する ワークショップ (40時間)

ワークショップ課程では、現場で活動するにあたって、対人関係の場面を想定したケアの技法の習得を目指します。傾聴法やカウンセリングなど、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に理解し、実践研修へとつなげていただきます。

- 全10回の講座のうち、8回以上の出席
- 筆記および実技の考査

実践する 実践研修(OJT) (100時間以上)

実践研修(OJT)では、臨床仏教師として活動するにあたり、今後必要な方を現場で学びながら習得していただきます。研修は、次のような団体・現場を予定しています。

例：病院／養護施設／自立援助ホーム／介護施設／各種団体(自死遺族支援団体／生活困窮者支援団体／ひきこもり支援団体など)

お申し込み方法

- 1 予約する
- 2 受講料を振り込む
- 3 受講証が届く

申込締切: **2022年10月11日(火)**
お申込受付: FAX 075-279-3641 (国禅研)
メール rinbutu@hanazono.ac.jp

受講料振込み依頼書を郵送いたしますので、期限内に郵便振替にてお振込みください。
振込締切: **10月14日(金)**まで

受講初日前日までに受講証がお手元に届かない場合は、お手数ですが事務局(075-823-0585)までご連絡ください。
※各回の授業の際には受付で受講証をご提示ください。

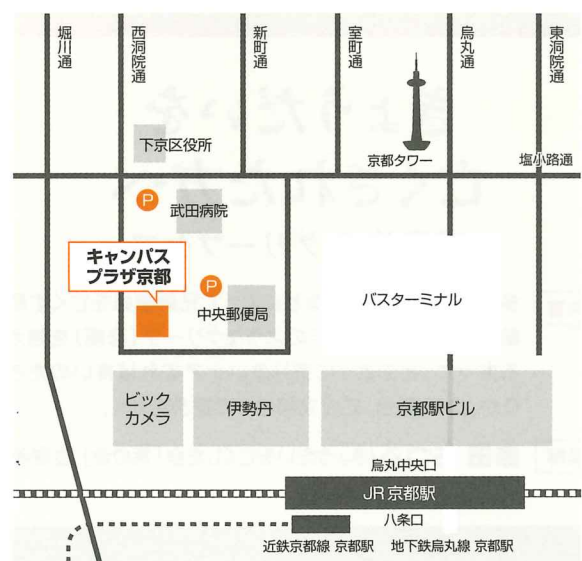
定員 80名 ※先着順(お早めのお申込をお勧めいたします)

受講料 全10回 一般 **28,000円**
花園大学及び臨黄寺院関係者・全青協会員・学生 **25,000円**

※受講のキャンセル(入金後の受講取り消し) **10月14日(金)**まで
やむを得ない事由で講座の受講ができなくなった場合、所定期日にご連絡いただいた方に限り、手数料1,000円を差し引いた受講料を返金いたします。なお、所定期日以降の返金はできません。

会場

キャンパスプラザ京都
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939



京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。

キリトリ線 <

[臨床仏教公開講座] お申し込み用FAXフォーム FAX 075-279-3641

フリガナ				年齢	才
お名前					
ご住所	〒				
TEL	FAX	E-Mail			
所属	(所属団体名・寺院名・学校名など)		(いずれかに○をおつけください)		
			一般・花園大学及び臨黄寺院関係者・全青協会員・学生		
			第1・2・3・4・5・6・7期受講・初めて		

仏教者は現代社会のなかで
人びとのところに
どのように寄り添うことができるのか

公開講座 臨床仏教

「臨床仏教師養成関西第3期プログラム」花園大学・アジア南太平洋友好協会寄附講座

2022年 10月18日(火) ▶ 2023年 3月7日(火) 全10回

会場: キャンパスプラザ京都 (京都府京都市)

受講料: 一般 28,000円 / 花園大学関係者・全青協会員・学生 25,000円

主催: 花園大学国際禅学研究所・(一社)アジア南太平洋友好協会
協力: (公財)全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

《臨床仏教師養成関西第3期プログラム》

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

※本講座は臨床仏教師養成プログラム通算第8期となります。

第1講 10/18 (火) 18:00～19:30

難民支援のあり方

－今、私たちに何が出来るのか!?－

内容 インドシナ難民支援が始まってから半世紀の時が経つ。今またウクライナから多数の難民が日本を含む国外に避難している。心身に傷を抱え経済的な困窮状況にある方々への支援について考える。

講師 河野 太通(花園大学 前総長)
神 仁(臨床仏教研究所 研究主幹)

第2講 11/8 (火) 18:00～19:30

仏教者の 災害支援活動

－僧侶と寺院の可能性－

内容 東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など近年相次ぐ自然災害、また、津波によってもたらされた原子力発電所事故。被災者支援活動において、僧侶を始めとする仏教者や寺院の果たすべき可能性について探る。

講師 稲場 圭信(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

第3講 11/22 (火) 18:00～19:30

生老病死の トータルケア

－地域社会の力を活かす－

内容 高齢化社会の到来によって、いま医療・社会保障制度が急速に変化し、地域主体の包括的ケアのあり方が要求されている。高齢者の看取りを含めて地域の核である寺院や仏教者が担う役割とは。

講師 飯島 恵道(ケア集団ハートビート(東昌寺) 代表)

第4講 12/6 (火) 18:00～19:30

クマの棲む 豊かな森を次世代へ

－縁起観に基づく共生社会－

内容 地球規模の温暖化現象は、これまでの生態系を急速に破壊しつつある。その一つの顕れが熊の棲む豊かな森の減少である。熊が生息できない自然環境は、人間社会に対してどのような影響を与えるのか。

講師 室谷 悠子(一般財団法人 日本熊森協会 会長)

第5講 12/20 (火) 18:00～19:30

被害者のこころと レジリエンス

－心理的援助のあり方を考える－

内容 児童虐待、DV、セクハラやパワハラ等によって心的外傷・トラウマを抱える人たちが多数存在する。被害を受けた方々に寄り添い支える心理的援助のあり方について学ぶ。

講師 丹治 光浩(花園大学 教授)

第6講 1/10 (火) 18:00～19:30

きょうだいを 亡くされた方へ

－ご遺族のグリーフケア－

内容 多くの人が病や事故などによって兄弟姉妹を亡くす経験を持つ。私たちはそのようなグリーフ(悲嘆)を抱える方々に、どのように寄り添いケアすれば良いのだろうか。当事者としての立場からの提言を聞く。

講師 赤田 ちづる(きょうだいを亡くした会「菜の会」 主宰者)

第7講 1/24 (火) 18:00～19:30

いのちの安心を 分かち合う

－傾聴僧としての取り組み－

内容 病院や施設、自宅でケアや看取りに携わる僧侶が少しずつ増えている。僧侶が傾聴僧であるためにはどのような心構えや学びが必要なのか。実践を通じた経験に学ぶ。

講師 河合 宗徹(傾聴僧の会 指導員)

第8講 2/7 (火) 18:00～19:30

子どもたちの こころに寄り添う

－僧侶として、スクールカウンセラーとして－

内容 いじめや虐待、不登校、自死等、子どもたちを巡る環境は、コロナ禍においてより深刻な状況となった。僧侶としてスクールカウンセラーとして、子どもたちのこころに寄り添うその姿に学び、自らを問い直したい。

講師 佐々木 慈隆(奈良県教育委員会 スクールカウンセラー)

第9講 2/21 (火) 18:00～19:30

仏の願いと仏教福祉

－ビハーラ21の活動を通じて－

内容 今日のビハーラとは、仏教に基づくホスピス等の看取りの場である。そのビハーラを施設のみに限らず地域社会に広げ、仏の願いを現成させている多年の活動に学ぶ。

講師 三浦 紀夫(ビハーラ21 理事)

第10講 3/7 (火) 18:00～19:30

悲嘆を抱える方の 居場所として

－お寺を場とした支援のあり方－

内容 お寺は生老病死の苦しみを吐き出し受け止める場である。多様化する今日的な悲嘆を受け止める心身の居場所として、お寺が果たす機能と僧侶の担う役割とは何か。

講師 西岡 秀爾(花園大学国際禅学研究所 客員研究員)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

人びとの「いのち」に
寄り添うために